

生駒市ごみ減量市民会議(第1回) 会議録

1. 開催日時 平成28年7月29日(金) 午後1時30分～午後3時30分

2. セイセイビル404会議室

3. 会議次第

- (1) 座長・座長代行の互選について
- (2) 活動内容と今後の取組について
- (3) 「ごみ減量化に向けて」アンケート(案)について
- (4) その他

4. 出席者(敬称略)

【委員】 藤堂 宏子、藤澤 清二、永野 洋子、山下 博史、田中 勝久、藤尾 庸子、石川 千明、下山 一則、奥田 高弘、小山 忠昭、坂本 剛伸、山口 昭夫、藤中 章夫、寺井 孝幸、中谷 充隆

【事務局】 小紫(生駒市長)、吉岡(市民部長)、吉川(環境保全課長)、中川(環境保全課課長補佐)、大窪(環境モデル都市推進課課長補佐)、西井(環境保全課事業係長)

5. 欠席者(敬称略) 淡輪 勝人

6. 傍聴者 0名

7. 会議内容(要旨)

<市長挨拶>

●座長・座長代行の互選について

事務局 本会議開催要綱第4条により、参加者の互選により座長・座長代行を定める必要があります。

参加者 ごみ半減会議の取りまとめにご尽力いただいた坂本さんは、今までの経緯もご存じであり、熱心に取り組んでいただける方だと思えるため、座長へ推薦したいと思います。

事務局 坂本様の推薦がありましたが、皆様いかがでしょうか。

参加者 異議なし。

事務局 座長は坂本様をお願いします。座長代行について、座長から推薦いただけたらと思います。

座長 本会議の活動内容に自治会単位の懇談会もあるので、自治連合会の代表である藤堂会長にお願いしたいと思います。

参加者 異議なし。

事務局 座長代行は藤堂様をお願いします。

<座長挨拶>

<座長代行挨拶>

●活動内容と今後の取組について

事務局 今回の会議開催前に準備会議を 3 回開催した中でこの会議が取り組む燃えるごみの減量化に向けた活動を 6 項目決め、これについて実践をしていきます。どの取組みを担当するか意見をもらっていましたが、実際にはどの項目に対しても皆さんに参加して実践していただけるようご協力お願いします。以下、会議進行は座長をお願いします。

座長 会議をスタートするにあたり、会議の趣旨に対し、共通認識を定める必要があります。開催要綱の第 1 条では「市民・事業者・行政の連携によりごみ減量に向けた活動を実践」と書かれており、これが一つのキーワードになるかと思えます。第 2 条では「以下の事項について意見を求め、及び実践を求めめるため開催する」とあります。この会議はごみ減量に関する制度を検討する場ではなく、ごみ減量のため、考え、議論をし、具体的な活動として地道に実践することが会議の位置づけであることを再認識していただきたいと思えます。次に案件について事務局から説明をお願いします。

事務局 <資料「生駒市ごみ減量市民会議活動内容」の説明>
活動内容は準備会で出た意見を基にしています。

座長 この 6 項目にについて、具体的にどう進んでいくかが決まっていないため、皆さんでアイデアを出していきたいと思えます。

参加者 「③有料化の成果についての PR」とあるが、成果のみを PR するのですか。検証という意味で実践したらいかがでしょうか。

座長 有料化の制度についての検証は、この会議で行いません。有料化を行いどういう結果になったかということを見ます。

参加者 検証をしなければ、取組の幅は狭いものになるかと思えます。

座長 このご意見に対して、皆さんはどう思えますか。

参加者 この会議は有料化の検証をする会議ではありません。それは参加者の募集を行ったときから明らかにしていることです。

座長 会議のメンバーを招集するにあたり、行政から「有料化を検討するのではなく、現状の活動に対して賛同する方をお願いします」と聞いています。他に意見はありますか。

参加者 会議の参加者の知識として、ごみ半減トライアル計画を含め、さまざまな施策で何が良かったか、何が足りなかったかを総評し、把握をしたうえで、次のステップに進んでいくのが良いかと思えます。

参加者 会議の前提として、有料化がどうだったかを検証するべきだということですか。

参加者 検証というよりは、生駒市が有料化をどのように評価しているのかを参加者は知っておいた方が良いかと思えます。

参加者 有料化の検証は行政などでしたり、勉強したりすると思えます。今後、ごみの半減は難しいけれども、どうやって半減に近づけていけるか、どんな努力をす

ればいいのか考え、市民レベルで実践するというのが会議の発足の趣旨です。おっしゃることも分かりますが、とりあえず会議を進めていくものだと認識しています。

参加者 成果という言葉が、プラス面・マイナス面を含むものであれば結構です。
座長 この会議が有料化を検討するものでなく、いかに減量していくかという点に知恵を出していくものです。ごみ有料化等検討委員会のあとに実施されたごみ半減会議で取り組んだ内容や課題は、報告書で明らかにしています。半減会議での課題などを引き継いで、今回の会議の活動をするという事は間違いありません。

参加者 「③有料化の成果についての PR」に関して、有料化をして良くなっていることの PR がないと市民としては反発を感じます。ごみの減量に取り組んでいない訳ではないため、具体的に良くなった点やさらに良くできる点を教えてもらわないと、市民としては協力できません。

座長 そのような PR をこれからしようというのが③です。

参加者 PR をしていないということですか。

事務局 有料化による減量効果については途中経過という形で広報に掲載しました。市ホームページでのお知らせもしていますが、PR の内容や手法も会議で検討いただいて、行政がそれを参考にさせてもらいたいと考えています。

座長 市が広報などで知らせていることが、市民に伝わっていないというご意見がありました。それを市民に伝えていこうというのが会議の趣旨ということです。個々の項目の具体的なことはこれから決めていきますが、大枠として①～⑥の視点で実施することについての異議はありませんか。問題がなければ、次の共通認識として数値目標を考えたいと思います。

参加者 異議なし

事務局 <資料「ごみ減量数値目標（案）」の説明>

前回の準備会で、平成 30 年度までに平成 25 年度比で家庭系ごみを 25%削減するという大きな目標は決定しました。目標達成のための具体的な数字の道筋を示してほしいという意見があったため、案を作成しました。平成 27 年度までは実績値です。平成 30 年度の目標は、平成 25 年度の実績に 25%削減した数字です。平成 28 年度・平成 29 年度は大まかな目安として案を入れました。平成 28 年度はこの会議の活動が始まって間もないため、数値目標は少な目に設定しています。ごみ半減プランでは、平成 21 年度を基準としているため、資料に平成 21 年度比の割合も掲載しています。「平成 30 年度の家庭系ごみを平成 25 年度比で 25%削減」という目標は、焼却量か収集量のいずれを削減するのかは決まっていないため、双方の量を掲載しました。なお、収集量は集積所に排出されたごみの総量で、焼却量は、清掃リレーセンターへの持ち込まれたごみと大型ごみの可燃分を収集量に足した量です。この案を基に、この会議の目標をどうするか

を考えていただきたいと思います。

座長 焼却量は年単位でのみ分かり、収集量は毎月把握できます。日ごろは収集量を対象にし、最終的には焼却量を対象にすると良いだろうという事務局の提案かと思いますが、よろしいでしょうか。

参加者 異議なし。

座長 資料の下部分（◎数値目標を達成するために）は、今後活動していく中でのヒントになるかと思います。

●「ごみ減量化に向けて」アンケート（案）について

事務局 平成 25 年に実施したアンケート調査と一部リンクしています。前回のアンケートと同様に、年代・性別・地域を考慮したうえで、9 月 1 日現在で 20 歳以上の市民 2500 名を無作為抽出して、郵送により実施したいと思います。9 月 15 日にアンケートを発送し、30 日に返送の締め切りを行い、10 月 17 日をめどに集計結果を取りまとめたいと考えています。

<資料「「ごみ減量化に向けて」アンケート（案）」の説明>

座長 スケジュールについては理解しました。順番に参加者の意見を聞きたいと思います。Q 1～Q 5 の「調査票への回答者について」の問いに意見はありますか。

参加者 性別の問いに「男性・女性」とあります。「ごみを出したことがない、何もわからない。アンケートを聞かれても何も知らない」という知人男性がいますが、そんな人にも回答してもらうのですか。

参加者 対象者を作為的抽出してはアンケートになりません。

参加者 分からないという人は何もしていない、分からないという答えをしてもらうことになります。

座長 無作為なので、そのような回答が出てくるのは仕方ありません。「分からない」も市民の一つの行動です。

参加者 アンケートは世帯主宛てに郵送するのですか。

事務局 20 歳以上であれば、世帯主以外も対象になります。

参加者 他の団体でアンケートをするときは、性別に「男性・女性」以外に「その他」をつくっています。できれば設けたほうが良いかと思います。

座長 調査機関等に確認を取って決めたら良いと思います。

参加者 ごみを出す人に回答してもらうのはいかがでしょうか。

事務局 抽出された人に限らず、同じ世帯の人も回答できるようにする方がより多くの回答を得られるかと思います。

参加者 興味がない人がいても抽出された人に回答してもらえば良いかと思います。

参加者 意識調査ならばそれで良いかと思いますが、ごみの減量のため具体的にどのような活動をしているか、あるいは今後どのような活動をするかなどを聞くのであれば、実際にごみを出している人の意見を聞く方が良いかと思います。

座長 2500 人の無作為抽出を世帯主にし、実際にごみを出している人に回答してもらう旨の依頼文書をつけるのでいかがでしょうか。

参加者 10 歳代の学生の一人暮らしもあるが、10 歳代はアンケートの対象外ですか。

事務局 では 18 歳以上にしましょうか。

座長 アンケート回答の選択肢に入れるとしたら「20 歳代未満」が良いかと思います。

参加者 地区はどのように抽出しますか。北・中・南地区を平均的に抽出するのですか。

事務局 人口比を基に抽出するため、一つの地区ばかりに偏るということはありません。

座長 次に Q 6 ~ Q 1 0 の「現状の燃えるごみの出し方について」の問いに意見はありますか。

参加者 Q 6 ・ Q 7 の問いは一袋だけごみを出す前提ですか。

事務局 そうです。

参加者 燃えるごみの中には、剪定枝や紙おむつなど有料袋を使わないごみもあります。問われているごみは、有料袋のごみだけかそれ以外も含むのかが分からず、それを明記しなければ分かりにくいです。毎回一袋だけ出す人と二袋出す人と思うので、個数を問う必要があるかと思います。

事務局 有料袋のことを想定しているので有料袋の質問をしていると分かるよう記載します。

参加者 個数を確認するのであれば、Q 7 の「週 1 回」などを「月〇袋」などの質問にすれば分かるかと思います。

事務局 Q 6 に「1 回につき何個ごみを出すか」を入れるのはいかがでしょうか。

座長 個数が分かるような質問があった方がいいかと思います。

参加者 有料化の前後とも 1 週間にどの大きさの袋を何個出すかなどという質問はどうでしょうか。

事務局 有料化前は、何リットルの袋を使っていたか気にしていないのではないかと思います。週何回ごみを出すかという問いにしていました。

参加者 有料化後だけを聞くので良いと思います。

参加者 2 週間に 1 回のみ出すという人もいるかと思うので、毎週は出さないなどという項目も要るかと思います。

参加者 Q 9 や Q 1 0 で「プラスチック製容器包装・ミックスペーパーを分別することを知らなかった」ということは質問する必要があるのでしょうか。

参加者 知らない人はいると思います。

座長 Q 1 0 までは以上でよろしいですか。では「環境・ごみ問題への関心や、ごみ減量・リサイクル活動等についてお答えください」について、いかがですか。

参加者 Q 1 4 に食用油の回収について書いていません。市で回収していると聞きました。

事務局 拠点回収をしています。

参加者 市としてどのくらい集計しているのか。

事務局 拠点回収の油の量を集計はできますが、燃えるごみとして出ている油の量は分
かりません。

参加者 Q14の11に「油を拠点回収へ持って行く」と入れるといいと思います。

参加者 Q14の「生ごみは絞ってから出す」というのは新聞などに包むということ
ですか。

事務局 ごみ袋に入れる前に、生ごみを絞って入れているかということです。

参加者 三角コーナーなどで水切りをするかということも含まれますね。

参加者 Q14の5の「不用品」の前に「再利用できる」を入れたほうが良いのでは。
また、Q14の6・7に「徹底して」とありますが、Q14の8に「徹底して」
がありません。

事務局 組成調査の結果、燃えるごみにプラスチック製容器包装・ミックスペーパーが
多く含まれていることが分かり、その分別が課題の一つだと考えています。そ
のため「徹底して」という表現になっています。

参加者 Q17の2「生ごみを分別して、資源ごみとして収集する」というのはどうい
った意味ですか。

事務局 プラスチック製容器包装などのように、生ごみを分けて透明・半透明の袋で収
集するという事です。

参加者 分別して収集することは可能ですか。

座長 この意見が多く集まれば、我々はこの意見を行政に伝えることとなります。

参加者 生ごみの分別収集について、簡単に質問するだけで良いのですか。

参加者 本当にエコを考えるのであれば、生ごみも分別収集を考えるべきかと思いま
す。

座長 エコパーク21を拡張して生ごみを資源化することをごみ半減会議として提言し
ましたが、市の回答は費用がかかるため当面はしないというものでした。また、
分別収集をしたとしても、市民が生ごみを分別できるのかという実務的な問題
があります。ごみ半減トライアル計画で、一つの地区に生ごみの分別収集をし
てもらいましたが、臭いの問題などから難しいことが分かりました。他に、京
都で研究されている自動分別を勉強するべきという提言もしています。しかし
現実的には、各家庭での生ごみ処理器の使用の推奨などしかできていません。

参加者 Q16の5「生ごみの資源化に取り組む」は各家庭での資源化か市全体の資源
化なのかが分かりません。

事務局 Q16では市の施策を質問しており、5「生ごみの資源化に取り組む」も市の
施策としての資源化という意図ですが、「市が」という表現を入れたほうが良い
ですね。

参加者 Q15で生ごみ処理器のことが問われています。生ごみ処理器の補助金を受
けた人へのフォローは必要でしょう。

座長 生ごみ処理器を購入した人へ別途追跡調査をするのはいかがでしょうか。

参加者 異議なし。

参加者 生ごみ処理器を持っていない人に「今後使用したいと思うか」を聞く質問も入れたほうが良いかと思います。

事務局 Q 1 7 の 2 「生ごみを分別して、資源ごみとして収集する」は削除して、生ごみについて別に自由意見をもらえる質問をつくりましょうか。

参加者 生ごみの分別をできるかどうかなどを聞く形にした方が良いのでは。

事務局 分かりました。

参加者 Q 1 6 の 4 「家庭系ごみ処理の有料化を導入する」は既に導入しています。

参加者 Q 1 6 の 4 「家庭系ごみ処理の有料化を導入する」の「導入」を消すかというと思います。

座長 以上の意見を受けて修正し、私と座長代行と事務局で確認をするということによろしいですか。

参加者 異議なし。

●その他

座長 今後の活動についてですが、5 地区の自治会との懇談会を開催するのをお願いしたいと思います。どこの自治会するか挙げていただけたら。

参加者 自治会への懇談会はどなたが参加するのですか。

座長 会議のメンバーがまず行きましょう。事務局の代表も行くと思います。自治会の役員やごみに関心のある人を対象にしましょう。

参加者 ある自治会が市に対してごみの半減化について質問状を出しました。市の説明に納得をされていないようなので、懇談会ではするどい意見も出るかと思います。市がもっとさまざまな施策をするべきではないかと。また、剪定枝の分別を資源化するという案が以前ありましたが。

事務局 ごみ半減プランで、生ごみ・剪定枝の資源化という案はありますが、その取り組みは遅れています。

座長 懇談会では、制度がどうかという話ではなく、日頃の状況など話すということをお願いをしたいと思います。

参加者 トライアル計画でひかりが丘の意見は聞いているので、できる限り別の自治会が良いと思います。

参加者 地区の特性があると思います。

参加者 住宅地やマンションなどいろいろなところで懇談会ができれば良いと思います。

座長 西地区や南地区などでも懇談会の対象自治会の候補の検討をお願いします。

事務局 他の活動内容として「④生ごみの削減 食品ロス削減への取り組み」があります。生駒市健康づくり推進員連絡協議会が、学童の子どもが対象のお料理教室で食品ロス削減に関するリーフレット配っていただける

と聞いています。ECO-net 生駒がもともと作成していたリーフレットを
活用させていただきます。

参加者 イベントでこの会議のブースをもらい、PR活動もしていけたらと思
います。

座長 今後なにかシンポジウムはありますか。

事務局 11月に大規模なイベントがあります。

座長 次回の会議は、そのイベントに参加をするか、するのであればどう参画
できるかということを検討することになるかと思います。

事務局 次回の日程は、座長と相談し決定します。